

## 式辞（平成25年度）

平成25年度入学式にあたり、お祝いと歓迎の言葉を申し述べます。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。またご列席のご家族の方々にもお喜びを申し上げます。

今年の入学式は、大学看護学部の第一回生をお迎えしたという意味で、記念すべき入学式です。看護学部の母体となった共立女子短期大学看護学科の教職員の方々および学生諸君のご努力に対し、この場をお借りして、改めて感謝の意を表します。

東日本大震災から2年たちましたが、被災地では、いまだに終りの見えない苦しみが続いています。今年も本学では被災地からの入学生をお迎えしています。本学で将来への希望の道筋を見出されるよう願っています。

さて、大学・短期大学は高校に比べてずっと自由だとよく言われますが、これはあまり正確ではありません。授業への出席が厳しく求められることは同じで、しかも通学時間は大学の方が長いという場合が多いようです。時間割も、朝早くから夕方遅くまで広がっています。授業で頻繁に課題提出を求められ、また授業内発表のための準備もしなければなりません。恐らく、多くの学生にとっては、資格取得のための受験はあるものの、もう進学のための受験ということを考えなくてもよい、ということが解放感につながっているのだと思われます。解放感はとても素晴らしいもので、それをぜひ勉強への意欲に振り向けてくださいますように。

大学は、かつては象牙の塔と呼ばれ、社会から隔絶した存在とされてきましたが、こんにちでは、大学は社会に直結したものであるべきであり、そこで行われている教育や研究が社会にどのように役立つか明らかにすべきである、と言われています。本学の創設と発展の経緯を見れば、本学が社会と直結したものであり続けてきたことは明らかであり、その点に本学の特徴を見るのですが、同時に、純粋に学問のための学問という要素を積極的に取り入れつつ本学が発展してきたという側面も否定することができません。大学と社会が価値観や関心領域において多く重なる部分がなければならぬとは言うまでもありませんが、かといって全部が重なってしまうと大学の存在意義が問われることになりかねません。新入生諸君も、社会に出る準備段階としての大学教育というものを意識しながら、同時に、学問の本質を知り、そこに喜びを見出すという心構えを持っていただきたいと思います。大学は社会の発展のためにあるのですが、社会の発展というものを、経済的・物質的側面からのみ捉えるのではなく、文化という大きな枠組みの中で捉えていただきたいと思います。

現代は情報社会と言われます。私たちは豊富な情報に埋もれるようにして生活しています。しかし、そのなかから、本当に必要な情報はなにか、あるいは、情報に誤りはないか、を見極めることは困難な作業となります。俗に「犬が人を噛んでもニュースにはならないが、人が犬を噛めばニュースになる」と言われるように、情報とは結局は興味本位なものです。したがって、大多数の人が特に興味を示さないことについては、どんなに重要なことであってもニュースにはなりにくい、という側面があります。東日本大震災とそれに伴う原子力発電所の事故の直後からこんにちに至るまで、それに関する情報が洪水のように流されてきましたが、常に問題になってきたのは、どれが正確な情報か、どれが必要な情報か、ということです。そして常に、情報の曖昧さ、それも、意図された曖昧さ、が指摘されてきました。さらに言えば、私たちは情報を受け取るだけでなく、情報を発信する立場でもあります。情報を発信する側の責任をどう全うするか、は、私たち一人ひとりの問題でもあるのです。若い皆さんは、大学・短期大学で幅広い教養と、深い専門性を身につけることにより、情報社会の限界の壁を突き破らなければなりません。時流に流されず、他におもねらない、確固とした自己を築く必要があります。しかしそれは容易なことではありません。そのための努力がこれから始まることとなります。

努力とは、登山のようなものです。登山の目的が山頂を極めることにあることは言うまでもありません。しかし、登山の過程で山頂を仰ぎ見ることは稀です。見るのは足元だけです。足元を見ながら、地道に一步一步を刻む——それが登山のすべてだと言っても過言ではありません。一步一步は単調で面白味のないものかもしれません。しかし、それが山頂への過程だと思えば、一步一步にも小さな達成感があります。その小さな達成感に喜びを見出さない人には、ついに山頂の喜びは無縁でしょう。授業に出る、課題をこなす、といった作業を、その一步一步と見なし、常に小さな達成感の

喜びを感じていただきたいと思います。

最後に、皆さんの本学での学びを可能にくださったご家族の方々に感謝申し上げ、皆さんの学生生活の豊かならんことを祈念して、式辞とさせていただきます。

平成25年4月2日

共立女子大学  
共立女子短期大学  
学長 入江和生